

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

通告書に基づき、以下質問をいたします。

1、糸魚川総合病院の基幹病院としての役割と市民が望む地域医療体制確保への市の責任について。

(1) 7月30日に市が主催した地域医療フォーラムの成果について伺います。

(2) 市民が心配する、市内出産ができないことへの対応について伺います。

(3) 猛暑により体調を崩し搬送された方はどのくらいおられますか。また、このような猛暑が今後何年間も続いたり、逆に冬季間に豪雪になった場合には医療の現場でどのような状況が生まれるとお考えですか、伺います。

(4) 市民が心配する、糸魚川総合病院の医師、看護師、診療科確保ができないことへの対応について伺います。

(5) 新潟県の医療構想を進めることで糸魚川圏域の医療がダウンサイジングし、市民の医療への不満や不安が増していくことを懸念します。米田市長の対応策を伺います。

2、駅北子育て支援複合施設基本計画の問題点と市民合意について（2）。

(1) 前回6月定例会の一般質問で提案した、子育て、図書、交流機能の機能を複合させて多くの利用がある長野県塩尻市広丘支所「えんてらす」の計画・設計・運営を調査・研究されましたか。「えんてらす」の優れたところをご理解いただけましたか、伺います。

(2) 前回6月定例会の一般質問でも施設の建設と運営について市は公民連携の手法の一つとしてDBO方式で進めたい旨の答弁を繰り返していますが、そうしなければいけない理由が分かりません。改めて伺います。

(3) 糸魚川市の著しい人口減が市民生活に与える影響を考えたときに、駅北子育て支援複合施設基本計画への市民合意、特に被災者住民の理解と協力は不可欠ですが、まだ不十分と考えます。まちなかのにぎわいや生活の利便性に寄与するかいまだ明確でない施設建設に15億円、運営に年間5,000万円を20年にわたって支出することに市民は合意していません。市長の考えを伺います。

(4) 施設運営について市は民間事業者に委託したいものと察していますが、直接であれ間接であれ市はNPO法人すいみいへの委託を前提に支援をしていませんか。市とNPO法人すいみいの関係について、NPO法人すいみいと市議会議員との関係について伺います。

(5) 駅北キターレ建設は、今振り返れば、需要のない公共事業推進と利権構造構築だったとの疑念が私にはあります。それを踏まえた上で、駅北子育て支援複合施設建設の推進に市民理解と協力を求めていくつもりではありますが、官製談合や特定業者への特別な配慮は排除しなければいけません。市長の考えを伺います。

3、大糸線の必要性と廃線・存続・発展について。

(1) 8月19日から21日まで開催された大糸線ファンミーティングの成果について伺います。

(2) ファンミーティングの展示会場、小谷村の複合施設「おたりつぐら」で7・11水害の状況とそこからの復興の様子を見て聴いて知ることができました。大災害を切り口とした大糸線の現在性と象徴性と必要性を考えることとなりましたが、協議会からの情報発信としていかがですか、伺います。

(3) ファンミーティングで知り合った方から、平岩駅の利用増大として蓮華・白馬へのルートの観光利用として、インバウンドへの四季を通じた誘客の工夫をすべきとの意見を頂いていますがいかがですか、伺います。

(4) 大糸線糸魚川ー南小谷区間を運営するJR西日本と、南小谷より南側の区間を運営するJR東日本との組織の違いから大糸線の活性化が図られないとの話をずっと聞かされていますが、何が問題となっているのでしょうか。そのことが解決に向かわないと、たとえ北陸新幹線が敦賀まで延伸しても、白馬・小谷・糸魚川の「白馬バレー日本海広域観光連携」を進めようとしても利用者が大きく増えることはないように思います。沿線都市の首長の皆様はどのような認識を持ち行動されておられるか伺います。

(5) 民間デベロッパーとえちごトキめき鉄道との協働による糸魚川ー白馬間の大糸線の運営は考えられませんか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、妊産婦を地域で支えていく取組について理解を深めていただいたものと捉えております。

2点目につきましては、安心して、妊娠・出産を迎えられるよう、妊婦健康検診などの交通費相当の経済的支援や、出産時交通費・宿泊費助成、妊婦情報事前登録制度などの支援を実施しております。

3点目につきましては、8月31日現在、50人となっております。また、気象や交通の状況により、救急対応に支障を来すおそれがあるものと考えております。

4点目につきましては、県や糸魚川総合病院と連携し、医師、看護師確保と診療科目の維持に努めてまいります。

5点目につきましては、救急や人工透析など、本市にとって必要な医療を確実に維持するとともに

に、分かりやすい情報の周知に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、多世代の方が利用され、にぎわいを創出できる施設と捉えております。

2点目につきましては、利用者の利便性向上を図るため、多様なノウハウを持つ民間事業者の参画や、様々な質の高い民間サービスの提供が必要であると考えております。このことから、運用する民間事業者の意向を、より建物に反映させることで、効率的・効果的な運営ができるDBO方式を目指しているところであります。

3点目につきましては、駅北大火以降、時間をかけて被災者の皆様や関係団体との懇談を重ね、現在の計画に至っております。

4点目につきましては、特定の団体を前提とした選定は考えておりません。市とNPO法人すいみいとの関係は、市の事業の委託先の一つであります。

5点目につきましては、子育て支援複合施設の施設整備と運営事業者の選定に当たっては、透明性を確保してまいります。

3番目の1点目につきましては、隊員同士の一体感やマイレール意識の向上が図られたものと捉えております。

2点目につきましては、当時の関係者の大糸線への強い思いや並々ならぬ努力によって、復旧に至ったものであり、しっかりと後世へ伝えていく必要があると考えております。

3点目につきましては、白馬岳、小蓮華山などへの登山客からご利用いただいております。引き続き、登山客をはじめ、外国人へ貴重な観光ルートとしてPRしてまいります。

4点目につきましては、JR両社が連携して、大糸線の活性化に取り組んでいただけるよう、引き続き新潟、長野両県や沿線自治体と一体となって要望してまいります。

5点目につきましては、JR西日本による経営が継続できるよう、利用促進や要望活動に取り組んでおります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

順番を変えて、質問の3、大糸線の必要性和廃線、存続、発展についての2回目の質問です。

大糸線ファンミーティング大変お疲れさまでした。

私も参加して、小谷村が所有する中土駅のリフォームやアジサイの植え込みをお手伝いさせていただきましたが、今年の夏の楽しい思い出となりました。

また、開会式には、沿線の糸魚川市、小谷村、白馬村の首長がそろって出席されましたし、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長の講演では、大糸線存続への大きなヒントを頂いたように思いました。

（1）ファンミーティングの成果について、より詳しく担当課より説明を願います。

あわせて、前回の第1回とは何が違ったのか、また、何をもちて大糸線存続への力となり得ると考えるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

今回のファンミーティングにつきまして、まず、隊員同士の、昨年やったようにミーティングだけではなくて講演会ですとか、あと実際に隊員の方から駅舎の整備や植え込み等に関わっていただくようなこと、あと、ふだんでは公開されていない車両設備、バックヤードの見学等をいただきまして、期間も昨年に比べて3日間ということで、非常に多彩なメニューによって行われました。今回、その整備作業とか見学を通じまして、隊員同士の少し、つながり、コミュニケーションが図れたかなということも感じております。また、大糸線に対する意識ですとかPR活動も図れたらろうというふうに思っております。

また、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長から、初日の日、講演をいただきました。そこには大糸線のファンミーティングなのですが、議員ご質問にあったように、隊員以外の方にも、村民・市民のほうからもいろいろ来ていただきました。その中では、ふだん身近過ぎて分からない大糸線の魅力という、それとか価値とか、そういうことをもうちょっと気づきなさいよとか、今までの乗って残そうではなくて、大糸線を知ってもらって鉄道ファン、ターゲットを絞ったような売り込み方というのが大事なんだよということを教えていただきました。

ただ、最後のほうの、じゃあそれをどういうふうにとということなんですけど、応援隊、ファンの方の力というのは、ありがたいです。ただ、私たちの行政の力でも足りません。ファンの力も足りません。ただ、少なくとも今回の応援隊の皆様から寄せられた意見、熱い思いというのは、この国や県に対してしっかり伝えて、存続に向けた活動の糧、いろいろヒントにさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、1回目のファンミーティングさせていただいたときに感じた反省点というものがございまして、やはり時間が足りない、また日にちをかけるべきというところがあったものですから、今回にそういったものが生かされたものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

課長、市長、ありがとうございました。

（2）です。私は、おたりつぐらで、7・11水害の状況と、そこからの復興の様子を見て、聞

いて、小谷では、中村村長をはじめ、議員の皆さん、村民の皆さんが、大糸線のこれからについて非常に関心をお持ちであることが分かりました。大糸線が、大災害からの復興のシンボルであることを改めて認識しましたし、同時に、存続が危ぶまれる大糸線の現在や、瀬戸際から地域を復興していこうとするときの象徴性、また、今後の必要性についても考えることとなりました。

これについては、米田市長もそうですが、大糸線沿線に住み、利用していた糸魚川市民は、小谷村の皆さんと意識を共有できると思うのですが、そうでない市内のエリアの方にとっては、果たしてどうなのかと、議会にいて、そう思います。その点、改めて市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もやはり平成7年7・11水害の真ただ中にいたわけでありますので、早速、大町市、白馬村、小谷村、糸魚川市、大糸線に沿線の関係ある議員同士で一つのワーキングチームを立ち上げて対応した経過がございます。そんなことから、いろんな首長との懇談会、また上部団体やJR、県、国がいて、いろいろとやはり活動した経過を考えますと、その中で今振り返って考えますと、やはり局所的な災害、大災害ではあったわけでございますが、局所的な災害で、旧能生町、旧青海町においては、さほど大きな災害が見受けられなかったことから、やはり市内全域もそうなんです、なかなか理解が得られてなかったんじゃないかなと。やはり我々みたいなそこに住んでおるところは、やはり大きなダメージを受けたと捉えておるわけでありますが、そういった温度差というものもあるのかもしれない。それが、やはり今のこの大糸線全体にもあるのではないかなと。小谷村や白馬村、大町市の捉え方と、糸魚川市の市民の大糸線の捉え方というのは、その辺の違いがあると捉えております。

しかしながら、やはり糸魚川市の都市の形態といたしましても、また継続・持続するまちづくりの中においても大糸線の位置づけというのは、私は大きいものがございますので、その辺をやはり市民に知っていただくような対応もしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

おたりつぐらに展示してありました泥に埋まった中土の駅舎、鉄橋から宙ぶらりんに垂れ下がった線路などを改めて見ますと、糸魚川の駅北大火のときもそうでしたが、災害が起きたときは、目の前の現実を何とかしようと思っても頭も心もいっぱいになって、必死にならざるを得ないのが、被災地区住民や企業です。そして、国が災害対応で大きな予算をつけてくれて、工事が発注されたときには、町ぐるみでの復興を目指そうとか言って、活発に動くのですが、大糸線が日に何人も乗らない状況をどうしますかと運営会社に言われるようになると、残すべきだ、残してほしいと協議会で発言するだけという状況、そんな構図ですよね。それで、幾ら3,000人を超す大糸線応援隊です。そのファンミーティングで出た意見・要望ですと言っても、それで運営会社が、大糸線存続と発展に

向けて、動くとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

応援隊につきましては、糸魚川から提案をさせていただいて、設置し、活動してるんですが、私は、これのみで対応できるとは思っておりません。もうありとあらゆるいろんな手段を使い、また、ありとあらゆる方々から応援をいただいて、大糸線存続に取り組んでいかなきゃいけないわけですので、これのみで対応できるとは思っておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

もちろん、大糸線応援隊の編成、そしてファンミーティングの開催、沿線市町の連携など、いずれも素晴らしいことだと考えています。

それで、私の質問（3）につなげてまいります。応援隊の方からの意見である平岩駅の利用増大として、蓮華・白馬へのルートの観光利用と、インバウンドへの四季を通じた誘客の工夫をすべきとのことについて、市内では、どのような協議をして、今回の私の一般質問への答弁の準備をされましたか、大嶋産業部長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋産業部長。〔産業部長 大嶋利幸君登壇〕

○産業部長（大嶋利幸君）

大糸線の活性化の取組につきましては、常日頃から公共交通を担当しております都市政策課と、あと観光を担当してます商工観光課において情報共有を図っているところでございます。また、外郭団体の会合等にも常に都市政策課と商工観光課の課長が出席しまして、意見を述べているところでございます。

議員言われるように、平岩からの蓮華方面につきましては、非常に魅力のあるルートでございます。非常にバスにつきましても人気のある路線でございます。そういう観点からもインバウンドのみならず、そこへ訪れるお客さんについて、的確な情報提供ですとか、ツアーも含めて情報提供をしていく必要があるというふうに思っております。

また、Hakuba Valleyについても、インバウンドのお客さんが多くおいでになりますし、また北アルプス日本海広域観光連携会議でも台湾を中心とした観光プロモーションを進めていく予定にしておりますので、それも含めて、これからの取組について進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ポイントは、平岩駅の利用増大、蓮華・白馬への観光利用、インバウンドへの四季を通じた誘客の工夫、すなわち春夏秋冬を楽しむ地方鉄道の雪景色も楽しむことができるインフラやルートが備わっていて、インバウンドにまで届く情報発信ができるかということです。

現状の取組、目指すべき形、そこへ至るまでの課題は何か。また、行政のなすべきことは何かということで、整理して、具体的な答弁をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

先ほど、大嶋部長のお答えは、総論のほうをお答えさせていただきました。私からは、今ほど議員からお問合せがありました、まず、平岩駅の利用増大につきましては、白馬温泉は、登山客からも大糸線を利用し、多くのお客様から利用されているというふうに思っておりますが、やはり大糸線の列車の本数も少なく、また平岩駅から目的地までのタクシー等の2次利用も困難な場所であるということでもありますので、それらを踏まえまして、まず、待ち時間で楽しめる駅づくり、また、目的地への2次交通の確保が必要であるというふうに考えております。

また、蓮華・白馬への観光利用につきましては、北アルプスを縦走できる非常に魅力的なルートでございます。多くの登山客が利用しておりますが、登山の特性上、やはり危険が伴いますので、安全で安心して楽しんでいただく登山ルートの構築につきまして、国や県、また関係自治体と、連携を引き続き行っていく必要があると考えております。

インバウンド向けの四季を通じての誘客につきましては、やはり外国人向けの情報発信や表示が、なかなか不足してはいるのではないかなというように感じております。やはり夏山やスキーを通じて、通年を通じた魅力的な景観やアクティビティにつきまして、魅力のほう、また引き続き発信するため、大糸線沿線の自治体との連携が、これまで以上に必要ではないかなというふうに思っております。

繰り返しの答えになりますが、やはりH a k u b a V a l l e yの玄関口として、糸魚川駅の利用促進等、大糸線そのものの魅力を含め、様々なツールを駆使しまして、観光誘客に努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

十分なご答弁だと思います。後はやるだけですな。

ファンミーティングに参加された方から、その後メールで、大糸線に乗る人を増やすご提案を頂きました。それを基に再質問させていただきます。

まず、大糸線応援隊と糸魚川応援隊との連携です。都市政策課が事務局の大糸線応援隊、企画定住課が事務局の糸魚川応援隊、双方の連携で、例えば東京等で行う糸魚川応援隊のイベントで、大糸線の現状を紹介し、利用促進を図る施策や、みいちゃん通りで開催するといがわマルシェに大糸線応援隊のブースを出して、大糸線の現状を訴え、利用促進を図るなどできないでしょうか。大糸線応援隊は隊員3,000人を超え、糸魚川応援隊は6,000人以上の登録があると思います。この連携と活用を図ってはいかがですかというものです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ありがたいご提案を頂いたというふうに、メールの方にもお伝えいただければと思います。

大糸線応援隊、今現在、9月4日現在、昨日3,158人というのが今の数字でございます。そのうちの3割以上が、関東、東京、神奈川、埼玉、千葉の4県で、3割以上の方、1,000人以上の方が大糸線応援隊の登録をいただいています。

議員ご提案のように、東京など大都市圏で応援隊の糸魚川のPRをするときに、大糸線のPRをするというのは、これは必ずやっていかなきゃいけないことですし、マルシェについては、ちょっとまだ今決めていなかったんですけど、応援隊のファンミーティングの中では、お客さんとしてファンミーティングに来るだけではなくて、そういう運営側、そっちのほうにも汗を流してみたいというような、ありがたいお声も頂いてますので、例えば糸魚川のと一緒になってアピールをしていたとか、そういうこともまた、応援隊の皆様にお声がけして、ちょっと関西のほうは、逆に今人数が少ないのでPRする余地はありますし、関東のほうは、そういう参加していただく余地というのは十分あると思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

おはようございます。

お答えいたします。

糸魚川応援隊、今現在で7,000人を超える人数になってきております。メルマガ等で糸魚川地域エリアの情報発信ですとか、また、東京で糸魚川が関連するイベントなんかの情報も発信をさせていただいております。大糸線の利用促進について連携がというご提案だったかと思っておりますので、そういったメルマガ等を通じた大糸線の利用促進についても進めてまいりたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

同じ方からの提案でございます。

第4回期成同盟会振興部会で討議された年間利用促進スケジュールでは、各事業合計の利用人数が9,201人となっていますが、今年度も約半分過ぎましたので、目標に対し、実績がどの程度か検証して、さらに隊員の乗車を促し、1万人増をぜひともクリアしなければなりません。今年度の1つのポイントは、乗車人員1万人増をクリアすることです。目標達成への決意表明を担当課長から答弁していただきたいとのご意見なのですが、課長ご指名でございますけれども、大糸線に乗るために東京から何度も足を運んでくださる、この応援隊メンバーには、市長からの決意表明をして、ご答弁いただきたいと思いますが、市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にありがたいお言葉であると思っております。本当に我々は、今、JR西、また国あたりは、乗降者人数を一つのバロメーターに考えておる部分があります。

ただ、我々は、そのみならず活動してるわけでございますが、しかし、与えられた数字というものもクリアはしていきたい。それに向かって進めることも大切なやはり活動であると捉えとるわけでございますので、いろんな活動についても乗車人数を増やすための活動も行ってるわけでございますので、その辺を現状のままでもいいのか、またブラッシュアップすればいいのか、早急に対応しながら、これからの時間に対して取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

この方は、民間企業にお勤めですが、ご提案から、さらに質問を続けます。

以下読みます。

役所でも会社でもそうですが、中期計画や5か年計画を策定すると思えます。大糸線についても、活性化協議会、あるいは振興部会、皆さんそれぞれいろんなご意見・要望を述べていますが、大糸線全線70周年記念の4年後を見据えて、こんな大糸線になったらいいねとか、こんな大糸線にしたいというビジョンをつくりませんか。

JRの意向よりも我々利用者目線、または観光客がいいねと思うようなビジョンです。それを文章で書くのもいいですが、私が考える一つの表現方法が、ダイヤです。列車ダイヤ、時刻表は、鉄道会社にとって商品目録、カタログと思えます。うちの会社は、こんなふうに列車を走らせてますよ、乗ってくださいというPRツールでもあると思えます。

ということで、4年後、大糸線をこうしたいという、4年後の列車ダイヤを作ってはいかがでしょうか。

すると、平岩駅に交換設備が欲しいとか、いろいろ出てくると思います。それらを全て出して、概算見積もりをします。恐らく天文学的数字になるでしょう。その上で、じゃあどうするのという、実現可能な方法を検討して、次の中期・長期計画を策定することで、持続可能な鉄道を目指します。ＪＲが言う持続可能とは、多少意味合いが違いますが、ＪＲに言われるままではなく、我々は大糸線をこうしたいというビジョンを立ち上げることができれば、ＪＲの運営にこだわらない、持続可能な別の選択肢もあると思いますというご提案です。

米田市長は、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今我々のやっておる行動にいたしましても活動にいたしましても、やはり計画性が大事だと思っております。そういう中で、この計画をしっかりと持ちながら目標に向かって進めていくことというのが、想定されるわけであります。

しかしながら、我々、今行っておる活動の中においては、ＪＲを巻き込んだ大糸線活性化協議会というのがございます。今まで、その活動の中にＪＲが入っていない間は、それはそれでよかったと思っておりますが、しかし、ＪＲもその中で活性化協議会の中に加わっておるわけでありますので、やはり我々だけでできるものではなくて、一番のやはりその施設所有者である、また管理者であるＪＲも巻き込みながら計画をつくっていかなくちゃいけないと思っております。

そういったことで、その辺のＪＲとのやっぱり連携というのを視野に入れながら、ご指摘いただいた点についても取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市長の立場としては、ごもっともなご答弁かと思えます。

ただ、今回のファンミーティングで、このような応援隊のメンバーから提案があったこと、これ私大きな成果ではないかと思えます。この方にインスパイアされて、私も様々思い巡らしました。大糸線の存続を考える市民とも意見交換し、アイデアを頂きました。

それを私なりにまとめてみたのが、（５）民間デベロッパーとえちごトキめき鉄道との協働による糸魚川－白馬間の大糸線の運営は考えられませんかということなのですが、再度、米田市長に伺います。

まず、民間デベロッパーと聞いて、どうイメージされましたか。それと、白馬、小谷、糸魚川のHakuba Valley日本海広域観光連携というものをどうイメージされましたか。今後、その具体化として、沿線都市の首長の皆様との同一年行動を取ってはいいただけませんか。米田市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、大糸線の存続に向けては、大糸線利用促進期成同盟会、そして大糸線活性化協議会という組織が存続いたしております。やはりそれを抜いて、我々は新たな活動というのはできにくいわけがありますし、またそういったことをなかなかできるわけではございません。行政が加わっているからには、やはり今ある組織をしっかりと生かして、その中で取り組んでいかなくちやいけないと思ってる次第でございます。でありますから、このＪＲの今のこの経営体を次の段階に入って、いろいろ具体的なものは出てきたんなら、私は仕方ないと思うんですが、今の段階では、それはまだ私は時期尚早と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ごもつともなご答弁だと思います。

担当課長からは、ＪＲ西日本をあまり刺激しないでほしいと実は言われておりまして、私のこういった質問が、一つきっかけになって、ＪＲ西日本が大糸線廃線に向けて、また動き出すということがあれば困るのですが、ただ、今のままでは、数年後に廃線に向かうというスケジュールではないのかなというふうに心配しまして、今回このような質問をさせていただいております。

そこで、デベロッパーの話をちょっと続けますけども、この場合のデベロッパーは、何とか会社のような中途半端なものじゃ駄目だと思います。役割も責任も明確ではないまま、税金を投入していくことが懸念されるからです。利益を生む民間会社として、まず10年の運営を考えてスタート。大糸線沿線の魅力をうまく使って集客し、利益を出す事業を行い、うまくいかなければその時点でやめる。しっかりとした民間会社の立ち上げを、大町、白馬、小谷、糸魚川のトップで、考えてみてはいかがでしょうか。そうなれば、新しい大糸線の歴史が始まります。今が、そのタイミングだと私は思います。

さて、米田市長は、その始まりのときにいると思いますか、あるいは終わりのときにいると思いますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり民間なり、また我々沿線自治体が、大糸線を必要とし、そしてそれに対して活動していく。やはり基本は、そこに住んでる人たちが、利用する方々が、メリットを共有、またメリットがやはり得られたということが一番大事だと思ってるわけではございまして、そういった結論的なところに持っていけるような活動にしていくことが、大切であろうと思っております。でありますから、地

域住民の方々も、そういった観点でこの活動に巻き込んでいただければ、人口減少や少子化ゆえ、日頃の日常生活、支援生活では利用できなくても、そういった形で参加していただけるんじゃないかなと思う次第でございますので、活動の中においては、基本的には利用される方のメリットがどうなんだというところを視野に入れながら行動・活動をしていきたいと思うわけでございますので、限られた時間かもしれません。そういう中においては、もうずっと私たちは取り組んできておるわけでございますが、今まではどっちかという助走期間だったかもしれません。

しかし、今これからは、全力でいろんなものを取り組んでいかなきゃいけないので、そういったのを視野に入れながら、またそういったものを頭に置きながら、これからの活動に使っていききたい、生かしていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、順番戻りまして、質問の1、糸魚川総合病院の基幹病院としての役割と、市民が望む地域医療体制確保への市の責任についての再質問をさせていただきます。

質問（1）、（2）地域医療フォーラムには、これまでになく議員が参加し、課題共有できたことはよかったと思います。

そこで、市民の参加、また、理解はどのくらい進んだと思われますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

地域医療フォーラム、今回の地域医療フォーラムにつきましては、周産期医療の現状と課題を市民の皆さんからご理解いただきたいということで、糸魚川総合病院における今の産科の取組、それから市の支援制度、そして、糸魚川総合病院の助産師で行っております「B i r C E（バース）プロジェクト」、こういうものについてお伝えをさせていただきました。

参加者は、ちょっと130人と少し少ない、主催者側とすれば、もう少し大勢おいでいただければありがたかったんですが、参加者のアンケートを頂きました。その中では、まだまだ不安な気持ちを抱えておられる方もおられましたけども、むしろ産前産後の手厚い配慮があることが分かって安心した。あるいは、2人目を考えており、細かいサポートが分かって参考になった。産前産後支援を市民に伝えることが不安解消につながる。こういう前向きな受け止めのほうが多かったように考えております。

したがって、フォーラムについては、大変、主催者側とすれば、有意義であったというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

6月の一般質問で、私は様々な医療の課題と市民の不安を取り上げ、医療フォーラムでお答えいただいたようにも思いますが、糸魚川総合病院の基幹病院としての信頼感のようなものが揺らいでしまったのではないかと。この先どうなるのか、改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院については、糸魚川市唯一の基幹病院であります。病床数も必要に応じてありますし、診療科目もございますし、そして何より救急であるとか透析であるとか、この地域にとっては、なくてはならない医療の提供をさせていただいております。

したがって、市としましても県と協力をしながら、糸魚川総合病院の診療機能・病床機能の適正化、適正な維持に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

僭越ですが、私の議員選挙での公約は、市民一人一人に寄り添う医療で、誰もが安心して暮らせるまち糸魚川へということでございます。旧姫川病院閉院の事件以来、地域医療確保を議員活動の一丁目一番地としてまいりました。

市長におかれましても、医療確保の先頭に立って、ご尽力をいただいておりますが、前から心配していたとはいえ、市内出産ができなくなったことは、糸魚川市の一大事と考えています。市民が希望を持って住むことに影が差してきた事態については、憂うだけではなく、市民のトップとしての役割と責任が問われていると思います。

さきのフォーラムにおいて、市長より、分娩は、黒部市民病院等と連携を図り、安心・安全にサポートできるように取り組んでいる。市及び糸魚川総合病院としては、今後、市内での分娩が再開できるよう、新潟県とも協力・連携し、産婦人科医師の確保に努めている。分娩が再開できるまでの間は、地域の関係機関が連携し、新たな形での妊産婦支援に全力で取り組むので、皆様のご理解・ご協力をお願いすると公言されました。市長の責任で、市内の分娩を再開させたいと、市民に理解されたと思いますが、その点、改めて市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に地域医療、人口減少の中で、非常にこの窮地にあると思っております。その一番やはり医師確保であったり看護師不足という現状の中で、地域医療をどのようにしていくかというのは、合併当時から、皆様方とご論議をさせていただいております。そういう中で、この周産期医療が危機に瀕しているというのは、非常に私も、当時から、平成17年から富山大学からご指摘を受け

ております。それで、ずっとそれに取り組んできたわけですが、現実として、今年の、この新年度から医師がいなくなって、出産ができない状況が生じたわけですが。

これについては、本当に市民の皆様方に申し訳なく思うわけですが、しかし、ずっと私は、情報発信をさせていただいてまいりました。しかしながら、この今まで過去のやはりこの地域の医療体制、非常に行き届いた体制であったかと思っております。それが変化をしてきているというのは、誰しもが承知いただきたいということで、姫川病院が閉院したときに医療フォーラムで、また情報発信もさせていただきました。そして、私は皆様方に呼びかけてまいりましたが、その地域フォーラムの、お集まりいただける市民は、知識の持った、そういった危機意識を持った方々がお集まりいただいて、そして情報をお聞きし、対応されておられるわけですが、もっともっとやっぱり広く市民に知らせていかなくてはいけないというところが、私は少し足りなかったのかなと反省をいたしておる次第でございますので、これからはもっともっとやはり、本当に知っていただくことが大切な方々に知らせていかなくちゃいけないかなと思っております。

そういったことで、出産ができないということで不安に思っておられる方々が数多くおられるかもしれません。しかし、それに対しても、今、応急対応でしっかりと取り組んで、今進めさせておりますし、引き続き新潟県と厚生連、そしてまた糸魚川総合病院と、産婦人科の医師を確保しながら取り組んでおるわけですが、一日も早く確保し、糸魚川で出産できる体制に取り組んでいきたいと思っております。

しかしながら、実際のこの地域医療の流れというのは、逆流をさせることはなかなか難しい部分がございます。これにつきましては、新潟県の地域医療構想の中で、またしっかりと位置づけしていきたいと思っておりますし、上越圏域での地域医療構想にしっかりと位置づけをしながら、対応してまいりたいと思ってる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

旧姫川病院の閉院のことに触れていただきました。大分時代が変わってきたことも事実、市長としては情報発信をしてきたというお話もございました。

私、しかしながら、糸魚川市の行政対応としては、やはり糸魚川総合病院の基幹病院としての役割を担い続けられるように支援をすることが、市長、行政の役割と責任であると思っております。厚生連病院としての生い立ちや条件、医師、看護師確保の難しさ、働き方改革を理由に、基幹病院としての体制がなし崩しになって、市民が路頭に迷うということはないでしょうか。できないものだから市外の病院へ行ってくれという状況が、数年先に待っているということはないのでしょうか。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今のご指摘は、私は当たらないと思っております。やはり糸魚川で診療をしなくちゃいけない、どうしても市民の健康管理に必要だという診療科目は、しっかり糸魚川の中で位置づけしていきたいと思っております。それはひょっとしたら、糸魚川総合病院でなくなるかもしれません。

しかし、今現在、厚生連、糸魚川総合病院としっかりとタッグ、連携を取っておるわけですので、やはりそこで位置づけしていくことになろうかと思うわけではありますが、このままずると基幹病院がなくなるということではございません。

そういったことで、この新潟県の地域医療構想というのは、そういった現状を踏まえ、県内ではそういうことが起きるとい形を視野に入れながら、この地域医療構想をつくるわけでありしますので、やはり上越圏域でどれぐらいの病院が必要なのかというのを視野に入れてつくる。そして、こういう遠隔地は、どういう医療が必要なのか。そういったところをやはり我々は、述べていかなくちゃいけないし、主張していかなくてはいけないわけでありしますので、完全に今、医療構想が完成したわけでもなければ、まとまったわけではございません。始まったばかりでございますので、我々は、糸魚川の現状、そして糸魚川の地域医療、そして絶対必要な診療科目、そういったものは、しっかりとその中で位置づけしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございます。

6月議会の私の一般質問で、出産における糸魚川総合病院と黒部市民病院との医療連携体制の整備を支援していくと、課長の答弁がありましたので、私は8月16日に、分娩医療体制の検証ということで黒部市へ伺い、知り合いの議員にお話を伺ってきました。言うまでもなく、行政、議会の連携には、まず足を運んで、会って話を聞くことが基本と考えてのことです。

それで、私が住む寺町から高速道路を使って、黒部市民病院まで45分でした。これって、近いのか遠いのか。妊婦さんは、道中どんな気持ちでいるのか想像しました。

黒部の議員とは、黒部市民病院の位置づけや市外からの利用について、これからの糸魚川での出産体制と医師派遣について、産後ケアサービスについて意見交換し、改めて地元で基幹病院がある都市に住む、安全と安心というものを考えました。

昨日の質問にもありましたが、黒部市と糸魚川市は、ともに4万人を少し切る人口です。

しかしながら、医療体制の差は大きいと感じました。このことを糸魚川市民は、どう思っているとお考えですか。米田市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川市民と黒部市民が、じゃあどういう医療の下にあるか、それについては、私のほうで特別比較したことはないんですけども、糸魚川市とすれば、この糸魚川におっても安心して安全に将来に向けて健やかに住めるような、そんな医療体制をし、それから、糸魚川総合病院、医師会と協力

をしながら、今までも維持してきておりますし、今後についても連携を深めながら、地域の医療体制を構築していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

これ以上聞いても、同じ答弁の繰り返しだと思いますので、ここでやめますが、またあの12月議会ですね、地域医療体制確保への市の責任について質問させていただきますので、よろしく願いします。

では、質問2、駅北子育て支援複合施設計画の問題点と市民合意の再質問をいたします。

（4）施設運営について、市は、民間事業者に委託したいものとされていますが、直接であれ、間接であれ、市はNPO法人すいみいへの委託ができるように、実績をつくる業務を発注していませんか、詳細を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私が、1回目の答弁でお答えしてあるとおりでございまして、まだ決定してるわけではございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

NPO法人すいみいと市議会議員との関係について、これは問題がある、問題がないという以前に、つながり、関係はありますよね。いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな今行政は、事業をするわけでありまして。まず、やはり一番そういった事業をするときに、そういった情報や、また知識を持っておられる方の意見を聞いたり、また、いろいろ相談をかけていかななくてはいけない部分があるわけでございますので、行政だけではできない部分については、民間のそういった方々の、市民のやはりお知恵や情報を聞かせていただく部分があるわけございまして、そういった市民と連携をしながら計画を進めていく、その方向の中で、私は捉えていただけるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ごもっともなご答弁だと思います。今の答弁を踏まえて、担当課どうぞ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

今ほど市長が申し上げましたとおり、例えば我々行政だけでできない部分、また民間の力を得なければできない部分につきましては、民間の力を活用しながら各種業務のほうを進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今のご答弁だと、すいみいと市議会議員は関係があるということが分かるんですけど、そういうことでよろしいですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

関係があるというような言い方とか責任とか、言葉だけで先走りするところがございます。相談や情報を提供いただいているというところで、やはり有識者からも情報というのは、これは今のご指摘の団体、またはその方のみならず、いろんなところで我々行っております。組織をつくって対応するものもあれば、個人的に知識の持ってるお方から情報を頂いて、計画づくりをするものは、結構あるわけでありますので、これだけ捉えて、私はご指摘は少し的外れかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

全くかみ合っておりません。

それでは、NPO法人すいみいの代表、それから構成員の数、事務所の住所、それから設立から今日までの経緯について伺います。

それと、事務所建物の所有者は、市議会議員ではありませんか。詳細を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、当該法人につきましては、設立につきましてはのホームページ等を拝見いたしますと2020年。ですから3年前ですので、令和2年の10月16日となっております。

また、こちらのほうもホームページからになりますが、会員と呼ばれます社員につきましては19名、また、役員等に当たります理事につきましては、理事長以下、理事長が1人、副理事長が2人、理事が1人、また幹事が2人ということで、6名の構成となっております。

また、今ほどご質問ありました事務所等立地の建物の所有者ということですが、こちらについては承知をしておりません。申し訳ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

休憩をお願いします。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時00分 休憩〉

〈午前11時01分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

ここで、15分休憩いたします。

再開を20分といたします。

〈午前11時01分 休憩〉

〈午前11時02分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

再開いたします。

今、休憩時間に議員のほうから指摘がございました。今、市長並びに行政側のほうから、この点について少し確認したいことがあるということ、また、今の質問内容についても、少し考えなければならないといえますか、一、二、指摘がございましたので、暫時休憩をして、行政側と調整を図りたいというふうに思いました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 02 分 休憩〉

〈午前 11 時 20 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

休憩を頂いたのは、やはり 4 点目で、特定の団体を前提とした選定は考えておりませんということではお答えをさせていただきましたが、さらに具体的な団体名を上げてご質問されておる。それは、やはり私は、団体はおりませんという、選定は考えておりませんというお答えしておるわけですが、さらにそういった具体的な組織・団体に質問をされるということは、私はこの質問にそぐわないのではないかとということで、議長にお願いして、その辺の今協議をさせていただいたわけでございます。

もう一度申し上げます。

4 点目につきましては、特定の団体を前提とした、この選定は考えておりません。ご指摘の、市と NPO 法人 すいみい との関係は、今現在、市の事業の委託先の一つでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18 番（田原 実君）

私、何でこんなに特定の NPO 法人について聞くかといえば、ずばり行政との関係の中で利権構造をつくっていかないかを心配するからなんですよ。

糸魚川市、官製談合事件ありました。官製談合は、何も建物の発注ばかりじゃないですよ。市が、かれこれ 1 年半も引っ張っている子育て支援複合施設の DBO 方式での運営事業者に、あらかじめ特定の事業者を決めてあるので、その路線から外せないのではないかと私が疑ってしまうような答弁が、4 月 11 日の総務文教常任委員会でも散見されたためです。

さて、委員会で教育長は、NPO 法人への支払いについて、一生懸命擁護されていたように私には見えました。普通は、課長ないし補佐が答弁するところを、委員の鋭い追及をかわすには、教育委員会のトップの威厳を持ってということだったかもしれませんが、私には違和感がありました。教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

今ほどの質問に対してお答えいたしますが、どうも私が出て、かばうようなといいますか、強めて発言したような思いを私自身にはありません。

ただ、課長あるいは次長の、今までの取組等をじっくりと私の立場から見ている中で、これは今現在、とにかくお願いする一つの団体であるというふうな意味合いで、会計のほうについてもお支払いしていくというふうな形でお答えした次第でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

特定のNPO法人への話は、これでやめます。

では、基本計画について、改めて伺います。

今後の議会の具体的な動きとしては、12月議会で基本計画案をそのままDBO方式で進めることで、議会承認を受けるつもりでしょうか。

今の私の態度を表明しておきますと、まずは地元の被災者住民の皆さんへよく説明して、意見を聴いて、合意形成をしていただかないと、議会で認めてはいけないと思います。6年間やってきたという市長の答弁は、これまでもありましたが、地元の合意形成は、まだできていないというふうに私は思います。

また、今提出されている計画に関しましても、この内容を修正していただかないと承認できないと考えています。これまでも私なりに合理的な設計を考え、提案してまいりました。改めて、私の代案をお示ししたいと考えますが、担当課は、それを聞いて、取り入れる余地はありとお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これについては、先ほど言いましたように、市民の合意を得ながら、透明性のある事業に持っていきたい。透明性のある事業として発注させていただきたいとお答えをさせていただいておりますし、そして今、我々がいろんなものを、我々がある程度固めて、お示しをしながら進めてまいりました。今回の運営に関する事柄についても、市といたしましては、より建物に民間事業者のご意向を発揮できるような、反映できるような、効率的な、また効果的な運営ができるDBO方式を取り組んでまいりたいという形で提案をさせていただいておりますので、そういったところをやはり、また、ご判断いただいたり、またご意見を頂く中で、またご意見いただければと思っておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

DBOは反対だと、2年は直営でやりましょうということは申し上げたので繰り返しませんけども、今問うてるのは、この基本設計に関して、私の意見を、今ここでまた聞いていただける余地はあるかということをお尋ねしました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

これからいろいろ計画を固めていく、運営方式を固めていくという、それぞれの段階で、これまでも住民の皆さんも、関係者の皆様、議会に丁寧に説明して、意見を聴きながら進めていくという答弁を繰り返しております。その中で、運営方式は特殊なのでDBOというところを使ってきましたが、まだこれから設計を決める、運営を決めるという、それぞれの節目のときには、必ず市が考えていることと議会の皆様の考えを合わせたような、節目節目をつくっていきますので、ぜひそういうときには、建設的な、前向きなご意見を頂けることは、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

イロハのイかもしれません、まず、設計の基本は、使わないスペースはつukらないということです。この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

使わないスペースをつukらない。当然なのですが、いろんな使い方ができる、いろんな目的に使えるスペースの確保というのは、逆に必要であるというふうにお願ひしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘の使わないスペースという形は、当然だろうと思っておりますが、いろんな方々のご意見がございます。そういったものをやはり我々はお聞きする中で、具体的に提案をさせていただきたいと思うわけがございますので、個々にこれはどうだ、これはどうかという話の中においては、また、いろんなところでご意見賜ればと思っておる次第であります。

〔「休憩を」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 28 分 休憩〉

〈午前 11 時 29 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

使わないスペース、そういった部分的な、またいろいろなご意見につきましては、いろんなところでお聴かせいただいたり、またその場の中で頂いたものについては、やはりしっかりと反映するものは反映する。また、無理なものは無理という形の中で、また整理をさせていただいて、ご提案をさせていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市民の声です。

子供が占有するスペースは、利用が減るばかりではないですか。そこの利用度は低いのではないかと。なぜそういう場所をつくるのですかと。

つまり、これが使わないスペースということですか。それが設計の課題です。設計費と運営費用が、未来の子供たちの負担になるのではないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういった見方というのものもあるのかもしれませんが。

しかし、空間というのは絶対必要であるわけですので、その辺の空間をどのように捉えていくかということも大事な事柄でございますので、決まって、この面積はどれぐらいとかというところの、またいろいろご指導もあろうかと思うわけでございますので、そういったところの指導を受けながら、適当な、その面積というものをやはり提示していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

にぎわいを生むとしているその交流スペース、これは具体的にどのような交流を想像しておられますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

にぎわいというのは、やはり私が捉えるのは、人が行き交うことがにぎわいではなかろうかなと思っております。1つの施設や1つの店舗に人が集まるのも、にぎわいかもかもしれません。また、通りに人が集まるのも、また通行人が多くなるのもにぎわいだと思っておりますし、やはり人が集めることが、にぎわいだと思っておりますし、この中心市街地のにぎわいに対して、駅北大火を機に、そういったにぎわいが生まれてくることをやはり望むものでございまして、施設整備をすることによって、そういった人的流れが生まれることを期待するものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

その話は、もう5年も前に聞いてますよね。にぎわいの定義について伺ってるのではないんです。もう具体的な設計に入る前段階で、この交流スペースというのは、具体的にどのような交流、誰と誰とかね。そういったところを検討されたでしょ、それについてお尋ねしてるんです。課長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

基本計画の修正案では、多目的な交流スペースというような表記をしてございますが、今、役所のほうの私どものイメージとしましては、例えば多世代の交流ですとか、市の外の人、中の人との交流とか、そういうもので、市長の答弁ではないですが、そこに人が多く来ていただけるようなことに使えるスペースとしての使い方を考えた計画整備を進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画には、にぎわいに資する要素をしっかりと入れ込むことです。

昨日の新保議員の一般質問を聞いて、子育て支援複合施設には、相馬御風作詞の作品のコーナーが必要と思いました。校歌「都の西北」が早稲田大学のシンボルならば、相馬御風先生が作詞した作品群も糸魚川市のシンボルとなるのではないかと思います。

ただ、市民には当たり前過ぎて気づいていない。なので、それをライブラリーとギャラリーの中に見える化して、観光誘客とにぎわいづくりにも役立てる。これを住民や地区の皆さんとワークショップをしてはいかがでしょうか。課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

お答え申し上げます。

イベントギャラリースペースに関するものと思っております。今のところ、審議をしていただいている中なので、今後こういった形で考えているかということではありますが、相馬御風のシンボリック的なものを契機として、いろんな取組を行ったらどうかというふうに捉えました。考えとしては、非常にそのとおりだと思いますし、今後の検討の一つに入れさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほど私、多世代というのともう一つ、市の中の人、外の人というようなお答えをしました。前段の大糸線の鳥塚社長の講演のところでも、地元の人が気づいていない魅力というところもございました。そういう意味で、今の田原議員のご質問に関しては、嵐口課長が答えたような観点というの必要です。これから検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ぜひワークショップやってください。それで、早稲田大学の関係者や旅行会社にもメンバーに入っていただくと、なおよいと思います。

既に県内の旅行会社からは、パンフレットも届いています。この続きは、また次回でございます。

今日のまとめに田原プランを説明しますと、計画は設計を工夫して、遊戯室300平米、子育て

支援センターと一時預かりで150平米、図書館300平米、ギャラリー・イベントスペース150平米、そして塩尻市の北部交流センターえんてらすの設計にある共有スペース600平米、その他スペース150平米程度、屋内駐車場はなし、延べ床面積は最大1,650平米、500坪、総2階建て一部3階、屋上は子供と近隣住民のフリースペース、津波災害時の避難場所とする。工事費は、備品・外構を含む建設事業費で約10億円以内、既存建物の取壊し工事費は別途という感じですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

田原議員のこのご提案、ご提案として受け止めさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

次に、阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、デジタル地域通貨「翠ペイ」について。

今年度から運用開始予定のデジタル地域通貨の名称が「翠ペイ」と発表されました。この事業を持続可能なものにするためには、収益サイクルをうまく回し、地域内で循環させる仕組みづくりが肝要だと考えます。そのためには、より多くのお店に加盟していただき、利用者が使いやすいものにする必要があると考えます。

また、市の様々な事業の発信や啓発活動、地域のイベントやボランティア活動等と連携を図ることで、幅広い活用が期待できます。

そうすることで利用者の消費動向や社会参加等をデータとして収集し、解析して行政の政策立案にも生かすこともできると考えます。デジタル地域通貨「翠ペイ」を地域コミュニティ活性化の土台としても活用し、より多くの方に利用していただき、地域経済がうまく循環することに期待しています。